

沖縄市の通りでごみ拾い 大阪・開明中3年生

修学旅行中、地域に恩返し

【沖縄】「SDGsの体験学習にもなる」一。大阪府の私立開明中学校(林佳孝校長)の3年生約230人が6月30日と7月1日の2日間、修学旅行で訪れた沖縄市の観光スポットであるゲート通りとパークアベニュー商店街でごみ拾いをするプログラムに取り組んだ。

同校は4泊5日の日程で沖縄を訪れ、初日は平和の礎、ひめゆりの塔の訪問・見学など南部戦跡巡りをした。2日目に、米軍嘉手納基地があり、生きた平和学習ができる沖縄市を訪れた。同校は3年連続のリピータ校で、今回のごみ拾いは、探究学習の一環として旅行代理店のJTBが企画提案し、センター自治会(松田健治会長)の協力ですべて実現した。

2日間とも10人前後のグループ編成で約1時間半、街歩きした。生徒らは歩きながら燃える

ごみ、缶、瓶、ペットボトルを仕分けるビニール袋に収集した。その光景にびっくりする市民もおり、事情を知り「ありがとう」と感謝する声も寄せられた。

2日目に参加した北浦光輝さんは「週末のせいか、思ったよりごみが目立った。でも、貴重な体験にもなった」と率直な感想を語った。

引率の林校長と協会との日程調整を担った久松宏次学年主任は「修学旅行を受け入れた地域への恩返しとして奉仕の気持



ごみ袋を持って短時間ながら収集活動をする開明中学校の生徒＝1日、沖縄市ゲート通り(提供)

ち。生徒には環境を意識する契機につながったのではないかと取り組みの意義を強調していた。(岸本健通信員)